

5. 情意的欲求

生活科や総合的な学習では、何よりも子供の主体的な活動を大切にします。そのためには、子供が興味・関心を示し、「何だろう？」と不思議に思ったり、「～してみたい」と行動を起こしたりするような対象と出会让せる手立てが必要です。

対象と出会った時に抱くものが『情意的欲求』です。生活科や総合的な学習では、活動のきっかけづくりとして、とても大切にされています。

情意的欲求とは

子供が次の活動に向かうのは、心の3要素である、情意（心）・認知（頭）・行動（体）のいずれかに、外部からのほたらきかけがあった場合である。しかし、この中で最も子供が心を揺り動かされ、次の活動がしたくてたまらなくなるのは、「面白そう」とか、「やってみたい」という要因であろう。これは、心の3要素の中の「情意（心）」に大きなほたらきかけがあった場合である。「面白い」というきっかけがあり、実際に活動していくうちに、「やった！できた！」「もっと工夫しよう」といった、行動面、認知面への刺激が加わり、さらに活動に広がりや深まりが見られるようになってくる。

このことから、子供たちの活動のきっかけをつくる大きな要素として、『情意的欲求』がクローズアップされるのである。このことは、生活科のみならず、すべての学習活動にも共通して言えることであろう。

—— 実践から ——

「公園で遊ぶ」活動を考えてみます。公園に子供たちを連れていくと、やはり遊具を使った遊びに夢中になります。それは、遊具には、たまらない魅力があり、子供の『情意的欲求』が高まっているからです。授業者として何とか遊具以外の遊びにも目を向けて欲しいという願いをもった場合は、子供たちに、この遊具以上の「魅力的な遊び」をきっかけとして紹介していかなければなりません。「手作りおもちゃ」を持ち込んだり、「草花遊び」に誘ったりして、様々な教師の挑戦が始まるのです。まさに、子供たちの「情意的欲求」を高める教師の積極的な支援であると言えるでしょう。